

CONTENTS

- 01 Cure治療支援のおはなし
- 02 Care療養支援のおはなし
- 03 地域医療を知ろう
- 04 連携病院・診療所紹介
- 05 各種健康講座の開催について
- 06 みよし市民病院を支えるチーム紹介
- 07 みよし市民病院は60周年を迎えました

# サツキ 晴れ

Satsuki  
bare



院長  
メッセージ

人生の最終段階について、思いをめぐらせたことはありますか。自分らしく人生を全うするには、最終段階にどんな医療やケアを受けるか考えておくことが重要です。今回の特集では、ACP（人生会議）について取り上げ、当院の考え方や取り組みを紹介しました。ご自身やご家族のこれからの人生に関わる問題、ぜひご一読ください。



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」  
**LINKED  
plus+**  
病院を  
知ろう

人生の最終段階まで  
チームで支えていきたい。

ACP（人生会議）特集

ご自由  
にお持ち  
ください

**みよし市民病院**  
Miyoshi Municipal Hospital

INFORMATION

## みよし市民病院は、今年60周年を迎えました！

2024年、みよし市民病院は開設60周年を迎えました。これを記念して、今秋60周年病院祭を開催予定です。皆さんに楽しんでいただける一日になるよう、今後、プロジェクトメンバーが趣向をこらしたイベントを検討します。どうぞご期待ください。

開催日・プログラムは決まり次第  
ホームページ等でご案内いたします。

<https://hospital-miyoshi.jp/>

みよし市民病院 検索



みよし市民病院  
開設55周年  
「みんなの病院感謝祭  
～今日は病院へ  
遊びに行こう！～」  
の様子

みよし市民病院の理念 みよし市を愛し、みよし市民の健康に寄与することを誓います。

基本方針

- 1 患者さんの尊厳を重視し、公正な医療を行います。
- 2 思いやりと、心のふれあいを大切にした医療を行います。
- 3 常に医療の進歩に目を向け、質の向上に努めます。
- 4 市民の皆さんに信頼される医療を行います。
- 5 地域医療の向上を目指し、保健・福祉との連携を図ります。



病院広報WEBマガジン

サツキ  
晴れ

みよし市民病院からの最新TOPICSや  
病気の基礎知識・検査・  
ケアに関する情報などを  
お届けします。ぜひご覧  
ください。

こちらから



LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「サツキ晴れ」のLINE  
〈公式〉アカウントを開  
設しました。QRコードか  
ら「友だち追加」をお願  
いいたします。



**みよし市民病院**  
Miyoshi Municipal Hospital

〒470-0224 愛知県みよし市三好町八和田山15番地  
TEL 0561-33-3300  
<https://www.hospital-miyoshi.jp/>

サツキ  
晴れ  
Satsuki  
bare

発行責任者／院長 伊藤 治  
発行／みよし市民病院 広報グループ  
記事提供／中日新聞広告局  
編集協力／プロジェクトリンク事務局  
発行日／2024年2月



SPECIAL REPORT

# 人生の最終段階まで チームで支えていきたい。

## ACP(人生会議)特集

患者さんの身体機能が衰えても、  
小さな幸せを叶えてあげたい。



### CHAPTER 01 人生の最期の瞬間まで 自分らしく生きるために。

人生100年時代に突入し、65歳の定年を迎えても、それから20年、30年の年月を生きていくのが当たり前になってきた。そんな人生の最終段階に関して近年注目されているのが、ACPである。ACPはアドバンスケアプランニングの略称。前もって(アドバンス)お世話になることを(ケア)計画する(プランニング)という意味で、人生会議とも呼ばれている。一般にACPという(意識がなくなったときに心肺蘇生や延命治療を望むかどうかを決めておく)ところに焦点があたりがちだが、実際はそれだけではない。みよし市民病院の事業管理者、成瀬達医師は次のように説明する。「ACPは最期の瞬間まで、その人らしく生きていくための計画です。ですから70代、80代、90代でそれぞれどんなことをやりたいかを考え、自分の望む人生の最終段階の過ごし方を決めて、周囲の人たちに伝えておくことが基本になります」。

成瀬の考え方に基づき、同院ではACPの取り組みに力を注いでいる。具体的には講演会などで市民へACPの実践法を紹介しているほか、院内の認知症委員会でACPをテーマに取り上げ、多職種みんなが患者へのアプローチ法を検討。その一環として、昨年からすべての入院患者や家族に〈アドバンスケアシート〉を手渡し、人生

### CHAPTER 02 患者さんの最期の幸せまで 支える病院としてこれからも。

同院がACPに積極的に取り組んでいる背景には、超高齢社会における病院の役割が変化し、〈治す医療〉から〈治し支える医療〉へと転換してきたことが挙げられる。そして、〈治し支える医療〉の軸となるのが、急性期から回復期、在宅療養までを切れ目なく、多職種が連携してサポートしていく継続ケアの体制である。「たとえば、患者さんが在宅療養を望んでも、ご家族がとお世話できないと尻込みされるケースもあります。そんな場合、当院では訪問診療や看護、訪問リハビリテーションの機能を駆使して、継続してサポートしていくことができます。ご家族にとって在宅介護は大変なことですが、〈やれるだけのことをやって見送ることができた〉と思っていただけたら、それは素晴らしいことですし、応援したいと思います」と、成瀬は話す。

同院はもとより、急性期医療を中心と

最終段階の希望を記入してもらう試みもスタートした。「これはもちろん、答えていただける方だけでいいのですが、患者さんの思いを聞き取ることで、多職種で情報共有してアクションに繋げるよう努力しています。たとえば、「病院よりも住み慣れたわが家で治療を受けながら、余生を全うしたい」というご希望のある場合、どんな課題をクリアすれば家に帰れるかを多職種で検討し、早くから準備しなくてはなりません。高齢者の場合、入院初日が最もADL(日常生活動作)が高く、入院期間が長くなるほど衰えていきます。入院中に認知機能が低下し、自己決定能力がなくなる可能性もありますから、一日でも早くACPについて話し合いを始めた方がいいと考えています」(成瀬)。

### COLUMN

●「どんな最期を望むか」と聞かれると、多くの人は「ピンピンコロリがいい」と答える。しかし、その望みが叶うのはほんの一握り。ほとんどの人は病気を患い、誰かの世話になりながら長く生きることになる。

●その要介護の期間をどのように過ごすか、前もって準備することはとても大切なこと。女性に2人に1人、男性は4人に1人が90歳まで生きる時代。できるだけ早くACPについて家族で話し合っておくことが重要だろう。

### BACK STAGE

#### 人生の最期まで寄り添う医療の必要性。

●一般に、病院の評価は手術の件数や病床利用率、平均在院日数などの指標で判断される。しかし、超高齢社会が進む今、病院の評価のあり方も〈患者の最期の幸せにどこまで貢献できたか〉というところにもっと照準が当てられてもいいのではないだろうか。

●みよし市民病院はその部分にいち早く着目し、継続ケアと在宅療養支援を重視し、ACPの実践にも力を注いでいる。その先駆的な取り組みにこれからも注目していきたい。





# Cure 治療支援 のおはなし

もっと  
知りたい!

今回のテーマ

訪問診療・往診



患者さんのことをよく知る  
主治医がご自宅を訪問し、  
必要な医療を提供します。

月に2回、定期的に患者さんの  
ご自宅を訪問するのが  
「訪問診療」です。

在宅医療では「訪問診療」と「往診」  
という二つの用語が使われます。このう  
ち、訪問診療は通院が困難な方に対し  
て、医師が定期的にご自宅を訪問し、  
診察や処方、療養上の管理や指導を  
させていただくものです。

当院で実施している訪問の頻度は、  
基本的に月に2回。訪問する医師は、  
入院や外来で診ていた主治医が担当  
することが多く、それまでの病状の変化  
を踏まえた上で継続的な治療を提供し  
ています。また、以前からよく知っている  
医師が訪問するので、ご家族から「安  
心して在宅療養を始められた」という声  
も多く寄せていただいています。

在宅療養中に急変したとき  
医師が急遽、訪問するのが  
「往診」です。

定期的に訪問する訪問診療に対し、  
緊急で訪問する場合は「往診」になり  
ます。たとえば、在宅療養中に急変した  
り、食事が摂れなくなったりした場合な  
ど、訪問看護師から報告を受けて当院  
の主治医、もしくは代理の医師ができる  
だけ速やかにご自宅を訪問。必要な医  
療処置を行ったり、薬を処方したりしま



す。病状が悪くなったとき、いつでも医師  
が駆けつける体制は、ご家族にとっても  
在宅療養の安心感に繋がっています。

また、当院では、在宅での看取りにも  
積極的に対応しています。「住み慣れ  
た家で、家族に囲まれて最期を迎えたい  
」と考える方が増え、在宅での看取り  
のニーズも高まっています。「自宅で見  
送ることができてよかった」というご家族  
も多くいらっしゃるから、これからも  
院内の医師が分担して看取りの往診  
に対応していく方針です。



## Message



みよし市訪問看護ステーション  
居宅介護支援事業所  
ケアマネジャー・看護師  
岩井瑞穂

多職種のスタッフが連携して、在宅療養を支えています。

地域の高齢化に伴い、外来受診が難し  
く、訪問診療や往診を希望する患者さんは  
年々増えています。当院のデータでは、訪  
問診療や往診の件数は6年前に比べると  
約2倍になっており、各診療科の医師が分  
担して患者さんのご自宅を訪問しています。

当院の訪問診療・往診の特徴は、同じ  
病院内にみよし市訪問看護ステーション、  
みなよし地域包括支援センター、訪問リハ

ビリテーションの各施設を備え、緊密に連  
携しているところにあります。医師を中心  
に、訪問看護師、訪問リハビリテーションス  
タッフ、ケアマネジャーなどが患者さんの情  
報を共有することで、適切な医療を提供し、  
安心して在宅療養していただいています。  
当院ではこれからも患者さんご家族の思  
いに寄り添い、人生の最終段階までしゃ  
りサポートしていきたいと考えています。



冬の健康管理①

暖かい室内から寒い室外への、急な移動に気をつけましょう。

# Care 療養支援 のおはなし

今回のテーマ

訪問リハビリテーション

患者さんのご自宅で  
身体機能を維持するための  
トレーニングを行います。

病気を治すだけ  
じゃありません。



退院後もトレーニングを  
継続して、日常生活の  
自立をめざします。

訪問リハビリテーションは、身体機  
能の維持・回復や日常生活の自立をサ  
ポートするために、患者さんのご自宅を  
訪問して行うリハビリテーションです。  
当院では令和元年(2019年)、理学  
療法士1名体制でスタート。現在は理  
学療法士3名に増員して、市内各地の  
患者さんのご自宅を訪問しています。

リハビリテーションの内容は、歩行、  
寝返り、起き上がり、立ち上がりなどの  
訓練や、食事、排泄、着替えなどの生  
活動作訓練、麻痺側の関節可動域の  
訓練など…。リハビリテーションの時間  
は40～60分で、週1～3回、定期的  
に訪問して訓練を行います。

生活上の困りごとに  
合わせて、動作の  
改善をめざします。

訪問リハビリテーションのメリットは、  
生活の場で患者さんが何に困ってい  
るか、どんなことをしたいかをダイレ  
クトにお聞きして訓練できるところで  
す。というのも、退院前にしっかり準  
備していても、いざ自宅に帰ってみ  
ると、以前と違って不便に思うところ  
がいろいろ出てくるからです。たと  
えば「トイレの立ち上



がり動作がむずかしい」「キッチンに  
立つのが思ったよりつらい」「洗濯物  
を干しにくい」…など。そうした困り  
ごとを一つひとつ確認しながら、日  
常生活動作の改善をめざしていきます。

また、「散歩したい」「買い物に行  
きたい」という希望があれば、実際  
に家外に出て周辺を歩く訓練も行っ  
ています。歩行能力や体力を高めるこ  
とで、生活の楽しみや社会参加の機  
会を増やすお手伝いをするのも、訪  
問リハビリテーションの大きな役割  
です。



## Message



理学療法士  
新川弥生

もっと多くの方に訪問リハビリテーションを知ってほしいです。

訪問先では、ご本人やご家族からさま  
ざまな相談をいただきます。たとえば、最近  
多いのが、嚥下機能(食べ物を飲み込む  
動作)のご相談です。私自身は理学療法  
士なので専門外になりますが、院内の言  
語聴覚士からアドバイスを受けながら、嚥  
下体操や発声練習のお手伝いをさせて  
いただいています。自分でできることは限  
られますが、患者さんの困りごとに精一杯

応えたととても喜んでいただけるので、大  
きなやりがいを感じています。

訪問リハビリテーションはまだまだ認  
知度が低く、通院できなくなった時点でリ  
ハビリテーションを諦めてしまう方もいら  
っしゃるようです。でも、トレーニングを続  
けることで確実に身体機能や日常生活動作  
は改善するので、ぜひ多くの方に利用し  
てほしいと思います。



冬の健康管理②

睡眠をしっかりとり、自律神経の乱れを防ぎましょう。



# 地域医療を 知ろう

今回のおはなし

## ACP (人生会議)

### まだ元気なうちに「自分らしい人生の終わり方」について話し合っておきませんか。

ACP(アドバンス・ケア・プランニング:人生会議)は、人生の最終段階に、自分がどのような医療やケアを望むかを前もって考え、信頼する人たちと繰り返し話し合う取り組みです。

私たちは誰でも高齢になったり病気を患ったりすると、医療や介護サービスを受けることになります。そのとき、どんなサービスを受けるかは、本人の自己決定能力があることが前提ですが、年をとれば知力も衰え、認知機能も弱まります。認知症は80代の前半で人口の約20%、後半になると40%になるともいいます。そうなる前に、最期のときをどのように迎えるか、周囲の人々と話し合っておくことがとても大切です。

当院では認知症委員会が中心となってACPの取り組みを進めています。元気なうちに、自分らしい人生の終わり方を考えることは、これからの日々を悔いなく生きることにつながります。ぜひ一度、ご家族で話し合ってみませんか。



#### 話し合いの進め方(例)

あなたが大切にしていることは何ですか？

あなたが信頼できる人は誰ですか？

信頼できる人や医療・ケアチームと話し合いましたか？

話し合いの結果を大切な人たちに伝えて共有しましたか？

心身の状態に応じて意思は変化することがあるため、何度でも繰り返し考え話し合しましょう。

参考:厚生労働省



## Our Partner

### 連携病院・診療所紹介

#### 医療法人 おかもとクリニック



消化器内科・内科・外科を中心に幅広い範囲の病気に対してプライマリーケアを行っています。

愛知県豊田市にあるおかもとクリニックは、「良質な医療を身近で手軽に受けもらえる診療所づくり」を診療理念におき、消化器内科・内科・外科を中心に幅広い範囲の病気に対してプライマリーケアを行っています。

院長の専門分野である消化器疾患に関しては経鼻内視鏡などの機器も備えており、吐き気もなく、心身ともに苦痛の少ない検査を受けていただくことができます。

また、薄毛・抜け毛の治療、予約制のアンチエイジング外来(シミ・しわ・たるみ、医療脱毛、痩身マシンなど)も行っております。

病気やけがでお困りの際は、お気軽に受診のうえ、ご相談ください。



おかもとクリニック 外観

DATA

#### 医療法人 おかもとクリニック

〒470-0374 愛知県豊田市伊保町下川原97-2

TEL 0565-45-3020

URL <http://www.okaclin.com/>



冬の健康管理③

散歩、ウォーキング、ストレッチなど、体を動かし温めましょう。

## TOPICS

皆さん一緒に健康づくり!



市民の方を対象に、各種健康講座を開催しています。

■ 楽しみながら健康の知識を! 当院の医療職がわかりやすくお伝えします。

当院では、市民の方を対象に、各種健康講座を開催しています。この講座では、当院の医師、看護師、リハビリスタッフ、日々の健康を保つためのポイントや病気の基礎知識、予防などの情報を、スライドなどを用いてわかりやすくお伝えしています。皆さんに楽しみながら知識を深めていただくことをモットーにしていますので、ぜひ、ご自身の健康管理にお役立てください。

#### 2023年度開催例

- 認知症講座(年4回:5/17、8/16、11/15、2/15)
- 糖尿病教室(年4回:4/25、7/25、10/24、1/23)
- 地域健康講座(11/8)
- 市民講座【小児の感染症とワクチンについて】(12/18)
- ロコモティブシンドロームのお話と運動(1/30)

開催情報は以下でご紹介しています!

- 当院ホームページ
- お知らせ
- ブログ
- 「やわたやまの日記」



- サツキ晴れ公式LINE



## みよし市民病院を支える チーム紹介

### 防災災害対策委員会

防災機能強化を図るため多職種で活動。いざという時の安全・安心を守る。

当院では、月に1回、多職種からなる防災災害対策委員会を開催するほか、年に4回、防災訓練を行っています。具体的な訓練内容は、緊急時のメール連絡や安否確認を含む年3回の基本訓練と、年1回の大規模地震や火災などを想定した避難訓練です。

訓練時には、災害アクションカードを活用します。これは、緊急時用に各課に常に掲示されているもので、限られた人員と医療資源でできるだけ効率的に緊急対応を行うための指針となるカードです。避難訓練以外にも、患者さんの搬送、ト



リアージ(傷病の緊急度や重症度に応じて治療優先度を決めること)、炊き出し、火災時の放水訓練など、さまざまな状況を考慮した訓練が行われています。

災害による被害や対応すべき内容が変化するため、防災マニュアルも常に最新の情報に更新しています。このように防災災害対策委員会の役割は多岐にわたりますが、安否確認や患者さんの迅速かつ安全な搬送のため、そして市民病院として医療救護活動にも対応できるよう、委員をはじめとした職員全員が協力して防災に取り組んでいます。



冬の健康管理④

バランスよい食事は、免疫力アップや体を温めるのに役立ちます。